

Mac OS

インターネットを使いやすくする9つの機能

G4というパワフルなCPUを背景に登場した新しいMac OS 9は、よりインターネットを意識したOSに仕上がっている。肩の力を抜いてリラックスしながらインターネットを楽しめる新感覚OSとしてリニューアルしたMac OS 9は、マイナーチェンジという認識が間違いだったと気付かせてくれるだろう。西暦2000年代、インターネット派マッキントッシュユーザーの環境作りはこのOSから始まる。

のココがすごい！

Mac OS 9登場!!

10月7日に発表されたMac OS 9に導入された新機能は、インターネットも統合して高度な検索機能を実現するSherlock2、TCP/IPベースのサービスにAppleTalkの操作性を取り入れた「ネットワークブラウザ」、マッキントッシュ独自のスクリプト機能のTCP/IP対応、セキュリティを支援するファイルの暗号化機能や声紋認識機能、さらに、マルチメディアに欠かせないQuickTime4やOpenGLサポート、そしてなんと、

家族でインターネットを使うとき、マッキントッシュの共有に便利な「マルチユーザ」のサポートなど、全部で50を超える。デスクトップデザインなどに大きな変化は見られないものの、インターネットの利用を前提としたマッキントッシュを考えると、Mac OS 9が新たなスタートポイントになることは間違いのないであろう。また、スペック上ではPowerMac以上で稼動となっているが、そのベースハードウェアはやはりG4がターゲットとなっている。

PPC601/603/604では非力であり、G3で実用的な速度になる。ブルー&ホワイトのG3マシンやiMacへの導入はファームウェアのアップデートが必要だが、必要なソフトは同梱されているので問題ない。ただし、CPUアクセラレーターによっては対応しないものもあるので、その場合はメーカーに確認してみよう。インターネット環境に限って言えば、最新のG4マシンやG3マシンがあるのならば、Mac OS 9を使ってみても損はないだろう。

「Sherlock 2」

“ 検索機能がさらにパワーアップ ”

大手のポータルサイトでは、込み合う時間帯には表示さえもままならないが、Sherlock2ならそんな苛立ちを味わうこともない。起動してキーワードを入力すれば、あとは結果が出るのを待つだけ。簡単にあらゆる情報を検索できることを目指して拡張されたアップルの検

索技術Sherlock2は、ハードディスクの中から情報を探すのも、インターネット上のサーチエンジンで情報を探すのも同じインターフェイスでできる。これらの検索手段は「チャンネル」と呼ばれる分類単位に分けられ、同じチ

ャネル内にある複数の検索先を一度に指定できるので、ウェブページを進んだり戻ったりする面倒がない。ただし、現在は日本語対応版のサービスがほとんどないのが少し残念。今後、徐々に増やしていくそうなので、大いに期待したい。

ファイル

ファイル名やファイルの属性で検索するファイル検索と全文検索ができる。全文検索をする場合、事前にインデックスを作成する必要があるが、一度インデックスを作成すると、高速にファイル内容を検索して該当するファイルをリストアップしてくれる。

インターネット

サーチエンジンを使ったキーワード検索ができる。複数のサーチエンジンを一度の操作で検索できるほか、名称や関連の度合い、サイト名なども表示され、そこから項目を選ぶと内容の一部も表示される。日本語サーチエンジンも登録されているので即戦力のある機能だ。

人々

BigfootやFour11、Yahoo!といった米国で公開されているLDAPサーバーを利用できる。このチャンネルでは、ここに登録されたユーザー名やメールアドレスを検索できる。オンラインの電話帳サービスのようなものだが、当然、見つけた相手も登録していないと検索できない。

ショッピング

米国のAmazon.com、eBay、Barnes and Nobleのキーワード検索ができる。商品の価格や納期が表示されるほか、リストのヘッダー部をクリックして並べ替えると、一番安く買えるサイトを簡単に見つけられる。日本のサイトもすくんに使えるようになってほしいところだ。



リファレンス

英語の辞書や百科事典、語彙辞典のサイトを検索できる。調べたい英単語の意味はもちろんのこと、似たつづりを類推した語彙も表示されるので、つづりがおぼつかない英単語も検索できる。参照程度には便利だが、こちらも日本語対応サイトはまだ用意されていない。

マイチャンネル

Sherlock2では、すでに登録されているサイトだけにアクセスするのではなく、新たなサイトも検索対象に登録できる。その新規登録先が「マイチャンネル」

だ。サイトを追加するには、そこにアクセスするための検索プラグインが必要となる。Sherlock2対応のプラグインはウェブサイト上で提供されており、ダウンロードした検索プラグインファイルをマイチャンネルウィンドウにドロップするだけでいい。また、チャンネルを新規作成してボタンアイコンを入れ替えたりといったカスタマイズもできる。

「検索プラグイン」は自分でも作れる!

利用者は、チャンネルを追加したり検索サイトを追加したりといったカスタマイズができるが、ウェブページを運営する人なら、自分のページの検索プラグインを提供することもできる。検索プラグインファイルはInternet Search Interface LanguageというHTMLに似た言語で書かれている。この作成方法はアップルコンピュータのサイトで公開されている。

developer.apple.com/ja/technotes/tnt114.html

ニュース

米国のニュースサイト「CNET」などでのキーワード検索ができる。検索結果は、関連性や日付、サイト名で分類される。気になった項目を選ぶとその記事の見出しが表示されるので、お目当ての記事を探しやすい。登録サイトは米国のみだが、毎日新聞の検索プラグインはすでに公開されている。

www.mainichi.co.jp/info/sherlock2

Apple

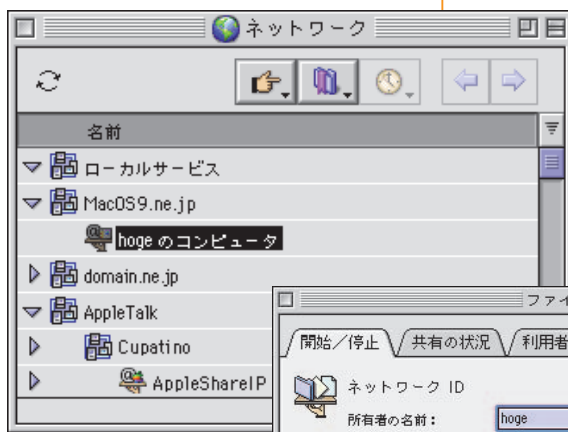
米国アップル社のウェブサイトを検索できる。商品情報だけでなく技術サポート情報も検索できるので、システムにトラブルが発生したら参照するといっだろう。日本のアップルコンピュータのサイトは登録されていないので、残念ながら、日本語ページはない。

2&3 「ネットワーク機能が & TCP/IP 共有」

“インターネットに完全対応”

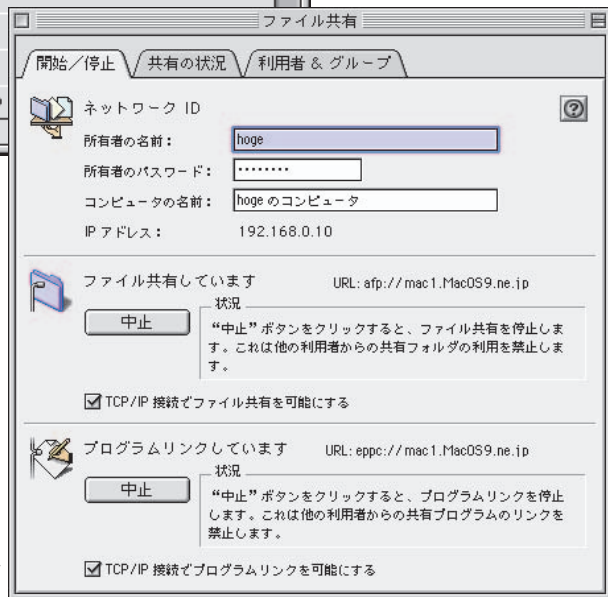
ネットワークプリンターやAppleShare ファイルサーバーの指定といったAppleTalk ベースのネットワークサービスは、アップルメニューの「セクタ」で表示したり選択指定したりできたが、TCP/IP ベースのネットワークサービスでは表示も指定できなかった。

しかし新しい「ネットワークブラウザ」では、AppleTalk と同様にTCP/IP ベースのFTP、ファイル共有、WWWのネットワークサービスを表示でき、AppleTalk ならばAppleTalk ゾーンに分類されていたサーバーが、TCP/IP ならドメインごとにホスト名が表示される。つまり、プロトコルにかかわらず同じ操作方法でネットワーク上のサービス（ファイル共有など）を利用できるのだ。ユーザーはアクセスしたいサーバーをネットワークブラウザから見つけ出してダブルクリックするだけで接続できる。また、ネットワークブラウザでリスト表示されている項目をデスクトップにドラッグ&ドロップするとファイルが現れる。このファイルはインターネットロケーションファイルといい、AppleTalk 環境でファイル共有のエイリアスファイルを作成するように、ダブルクリックでAppleShare やWWW ブラウザなどの適切なアプリケーションを起動して目的のサービスにアクセスもできる。



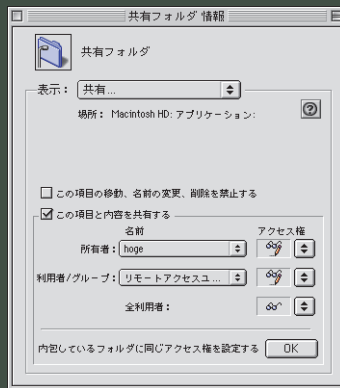
ネットワークブラウザには、マッキントッシュ内で提供されるローカルサービス、IP ベースのWWW、FTPサーバー、AppleTalk ベースのファイル共有やAppleShareサーバーが階層表示される。AppleTalk の下層にはゾーン名 (Cupertino) が表示されていて、その下にAppleShareサーバー (AppleShareIP) が見える。MacOS9.ne.jp ドメインの下にあるのはWWW共有サービス。

コントロールパネル内にある「ファイル共有」でファイル共有を開始させる。ファイル共有の利用者は「利用者 & グループ」タブで設定しておく必要がある。そのままファイル共有させるとAppleTalk で動作し、オプションを指定するとTCP/IP で動作する。プログラムリンク (動作中のプログラム間でのコマンド送受信機能) もTCP/IP になり、AppleTalk で作られたネットワークユーティリティの移植が期待される。



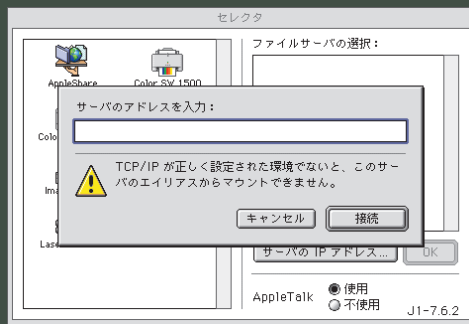
これが「TCP/IPファイル」共有だ

TCP/IP ベースでのファイルの共有方法は、AppleTalk とほぼ同じで、「共有サービスの開始/停止の設定」「利用者の登録」「フォルダの公開」の3つの作業からなる。共有サービスの開始/停止の設定と利用者の登録は、コントロールパネル内にある「ファイル共有」で行う。この作業を完了した後、共有したいフォルダを指定し、メニューから「ファイル」「情報を見る」「共有」と選択していくと、フォルダの共有設定ができる。ただし、TCP/IP ベースのファイル共有の場合は、TCP/IP 設定が終わってから行うこと。また、ウィンドウズなどからの利用はできない。



ファイル共有を利用するには、アップルメニューのセクタを使う。AppleShare アイコンを選べると、「ファイルサーバーの選択」欄にAppleTalk でサービスされるファイル共有サーバーが一覧表示される。TCP/IP でサービスされるファイル共有サーバーは表示されないで、「サーバのIPアドレス」ボタンをクリックし、IPアドレスを直接指定する。ネットワークブラウザなら一覧表示される。

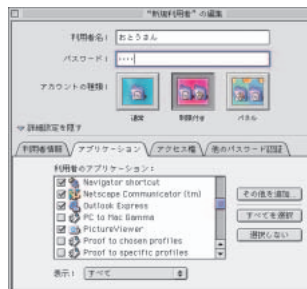
ファイル共有サービスでは、フォルダ単位で公開する。選んだフォルダの共有情報を表示させ、「この項目と内容を共有する」にチェックする。所有者、グループ、全利用者ごとに「読み/書き」「読み出し」「書き込み」の3種のアクセス権を指定できる。指定フォルダ内に置かれたフォルダも一括して指定するには「内包しているフォルダに同じアクセス権を指定する」ボタンをクリックする。



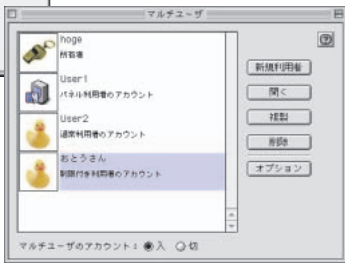
4 「マルチユーザ」

“家族でマックをしよう!”

いままでのMac OSは、デスクトップの背景画を変えたりマウスの設定を変えたりすると、同じマッキントッシュを使うほかの利用者もその設定を強いられた。しかし、Mac OS 9では最大40名をユーザー登録でき、ユーザーごとにデスクトップ環境や起動ファイルの設定、利用アプリケーションやCD-ROM利用の可否を設定できるので、家族でマッキントッシュを共有したり、会社で共有したりする場合の使いやすさが向上した。ファインダーをそのまま使わせるか、制限付きにするかが選べる。また、かつてのAt Easeのような簡単な操作方法も選べるため、初心者にも優しいデスクトップ環境が作れる。



コントロールパネル内にある「マルチユーザ」でログオン可能なユーザーを登録する。利用者ごとにファインダーの動作制限や利用アプリケーション、CD-ROMやDVDの利用制限を指定できる。声紋認識の機能を使う場合は「他のパスワード認証」の設定で声紋を登録する(後述)。

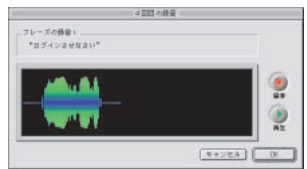


「マルチユーザ」のモードでは、起動直後にマルチユーザログオンメニューから利用者名の項目を選択するところから始まり、パスワードまたは声紋による認識が要求される。マルチユーザモードに切り替えるには、コントロールパネル内のマルチユーザのオプション「マルチユーザのアカウント」を「入」にする。

6 「ボイスプリントパスワード」

“子供でもらくらく入力”

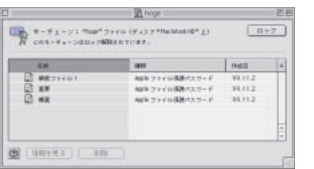
「ボイスプリントパスワード」では、指紋と同様に個人を特定できる情報と言われている声紋を、個人認証の方法として採用した。マイク収録によって抽出した声紋と、あらかじめ登録しておいた声紋とを比較するだけでいいので、ログオン時にパスワード入力などの必要もなく、これなら子供でも簡単にログオンできる。設定は、マルチユーザ登録時に、読む文字列を指定し、声紋抽出用にこれを4回音読すればいい。



7 「キーチェーン」

“ひとつのパスワードですべてを管理”

パスワード付の安全な箱の中に、いろんなサービスのパスワードを保存しておけば、個々のパスワードを覚えておく必要はなくなる。この箱にあたるのが「キーチェーン」という機能だ。ここでは、ファイル共有やファイルの暗号化をするときに必要なパスワードを登録でき、登録後はパスワードの入力をせずに各サービスが利用できる。また、キーチェーンは、ほかのマッキントッシュへの移動もできる。



5 「ソフトウェアアップデート」

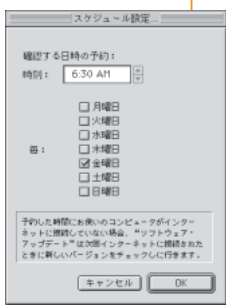
“いまずぐ簡単バージョンアップ”

インターネットを介してアップル社のサーバーにアクセスし、システムソフトウェアを自動的にアップデートする機能が取り入れられた。ウイルス検知ソフトなどで馴染み深く非常に便利な機能だ。コントロールパネル内にある「ソフトウェア・アップデート」のボタンをクリックすると、インターネットの接続を開始してアップルのサーバーを調べに行く。そして更新されたソフトを見つけると、ダウンロードおよびインストールを開始する。ダウンロードする前には電子署名を確認するため、悪質なソフトをダウンロードすることもない。また、更新のスケジュールを設定できるので、深夜の定期的な自動更新も可能だ。



自動アップデートの方法は、コントロールパネル内にある「ソフトウェア・アップデート」を開いて、中央のボタンをクリックするだけ。あとは自動的にバージョンを確認してダウンロードおよびインストールしてくれる。

自動アップデートは、スケジュールを登録して深夜に実行させることもできる。このほうがインターネットが空いているので経済的だ。コントロールパネル内にある「ソフトウェア・アップデート」から予約設定をすると、このウィンドウが現れる。



8 「アプリリモートアクセス」

“遠隔地からダイヤルアップ”

いまでも、アプリリモートアクセスのクライアントソフトはMacOSに付属していたが、Mac OS 9ではパーソナルサーバーがバンドルされている。これにより、モデムやTAを備えたマッキントッシュはOSだけでアプリリモートアクセスのサーバーになるため、外出先でもPowerBookやiBookからダイヤルアップ接続でネットワークサービスを利用できる。



9 「TCP/IP対応AppleScript」

“ワークフロー管理も簡単”

いまでもWWWブラウザやFTPクライアントソフトなど、TCP/IPベースのアプリケーションは個別にマッキントッシュの標準スクリプト言語(AppleScript)に対応していたが、ネットワーク対応はAppleTalkプロトコルのみだった。今回、TCP/IPプロトコルも標準でサポートされ、TCP/IPネットワーク経由でつながったほかのマッキントッシュとのプログラムリンクも可能となった。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp